

指定校番号	29014	学級活動	児童会	○	クラブ活動	学校行事	小学校用
-------	-------	------	-----	---	-------	------	------

## 平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	安芸太田町立加計小学校	校長	佐々木 亮	生徒指導主事	田尾 佐智恵
-----	-------------	----	-------	--------	--------

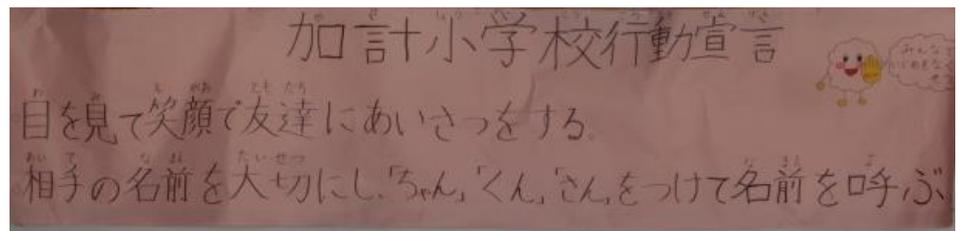
<b>取組事例名</b> 『いじめストップ集会』	
<b>取組のねらい</b> 『キーワード 主体的な取組』	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童自身が、いじめを許さない学校づくりのための取組を創造する。</li> <li>・全校児童がいじめについて考え、いじめを許さない意欲を高める。</li> </ul>	
<b>身に付させたい資質・能力</b>	
<b>課題発見力</b> ：いじめを許さない学校にしていくために、解決すべき課題や必要な取組について考える。 <b>自己肯定感</b> ：自分たちの取組が評価されたり、学校が変わっていったりすることで、自己肯定感を高める。	
<b>取組の具体的内容</b> 『キーワード みんなが考えてくれる集会に』	
<p><b>1 加計中学校生徒会との交流会</b></p> <p>具体的な活動について、中学校生徒会の活動を参考にさせていただくと交流会を要望し、実現した。</p> <p><b>2 キャラクター募集・決定</b></p> <p>いじめ撲滅のためのオリジナルキャラクターを作成した。キャラクター名を全校から募集し、投票で決定した。</p> <p><b>3 いじめストップ集会の開催</b></p> <p>いじめストップ集会を企画し、開催した。</p> <p>事前に、各学級に「いじめの入り口」になることはどんなことかを考え、集会では、みんなから出てきた「いじめの入り口」を加計小学校からなくしていこうと提起した。そして、一人一人ができることを行動宣言として考えていった。</p> <p>集会後、児童会本部として学校全体で取り組む『加計小学校行動宣言』を考え、全校に提起した。</p>	 
<b>取組の課題・創意工夫</b> 『キーワード 主体的な取組に』	
<p>・児童会役員のメンバーは、昨年度のいじめ撲滅の取組のイメージしかなく、新しい活動を考えることができなかった。そこで、「中学校の生徒会に話を聞いてみたい」という児童の希望で、交流会を設定した。中学生からは、これまでの取組や小学校だったらこういう活動はどうかという具体的な取組の提案もしてもらった。その後は、意欲をもって取り組むことができてきた。また、いじめ撲滅の取組だけでなく、児童会役員としての心構えなどを教えてもらったことで、全ての活動において、主体的に取り組もうという意欲が出てきた。</p>	

・「いじめの入り口」を各学級で考えてもらい集約する中で、学校の中には「いじめの入り口」がたくさんあり、児童会役員のメンバー自身が、これらをなくしていくことが大切なことだと気づいていった。そのことで、いじめストップ集会をしていく意義を自覚し、主体的に取り組もうという姿勢が見られるようになってきた。

・加計小学校行動宣言をつくっていくにあたっては、なかなか具体的な行動を考えつかなかったのが、「いじめの入り口」をなくしていくために、まず何ができるかを考えていった。今年度いっぱいみんながクリアできそうな具体的な取組を提起することができた。

・加計小学校行動宣言を実行していくために、宣言のうちの一つを毎月

の生活目標として取り組むことにした。更に、各学級でどのようにがんばるのか具体的な目標を決め、取り組んでいるところである。



### 取組の成果（効果）『キーワード 気づき』

・i-checkの「いじめのサイン」の項目において、6学級中5学級の肯定的評価について1学期より3学期の方が上がっている。いじめストップ集会の取組によって、「いじめの入り口」になっている行動に気づき、やめようと行動化したことが一因となっていると考えられる。

・これまでは友だちから嫌なことをされても我慢することが多かった児童会役員のある児童が、担任に相談してきた。「いじめの入り口」を自らが見逃してはいけないと感じて行動することができた結果と考えられる。

・次期児童会役員選挙において、立候補者の多くは、「いじめの入り口」をなくしていくために、どんなことがしたいかということ具体的に演説で訴えていた。学校の中にある「いじめの入り口」に気づき、なくしていくことが学校をよりよくしていくことにつながると考えた結果だと分析する。

### 今後の展開『キーワード 継続的な取組に』

・現児童会役員からは、中学校の生徒会との交流をもっと早い段階でやりたかったという声も上がっていた。年度当初に交流会を持つことで、さらに意欲的に自治的活動に取り組めるのではないかと考える。

・今年度つくったキャラクターや行動宣言を来年度にも引き継ぎ、継続した取組にしてほしいという願いを持っている。

・現児童会役員の児童から、次期児童会役員の児童へ上記の思いを伝えていくことで、自分たちが引き継いでいくという思いが持て、より自治的活動を創造していくことができるのではないかと考える。

### 他校へのアドバイス『キーワード きっかけづくり』

・本取組では、中学校生徒会との交流がきっかけとなり、主体的な活動ができた。近隣の小学校や中学校との交流は、お互いに刺激となり、多くのヒントをもらうことができると考えられる。